

上高地山岳研究所における 「ミニ水力発電計画」について

ミニ水力発電計画実行委員会



1999 年 (平成 11 年)
4 月号 (No. 647)

社団法人 日本山岳会

The Japanese Alpine Club

定価 1 部 150 円

目次

「ミニ水力発電計画」について	1
ガンカー・プンスム峰登山隊計画延期の経緯について	4
海外の山	5
南側からの視点	6
支部事務局担当者が集いました	7
ネパールから図書寄贈に礼状	7
支部だより	8
宮崎支部 秋田支部 北海道支部	
わが支部としてのおきの一山PART II	
関西支部、山梨支部	11
宮城支部、静岡支部	12
福岡支部、岩手支部	13
越後支部、信濃支部	14
報告	
科学委・「数値地図」講演会	15
学生部・雪崩ビーコン講習会	15
三水会・奥武蔵 竹寺山行	15
東西南北	
赤シャツ今昔物語	16
モロッコの旅雑詠	16
今西壽雄さんの散骨	16
ボナッティ氏との一日	17
図書紹介	18
図書受入報告	19
会務報告	21
INFORMATION	22
さんけんだより	22
ルーム日誌	23

▶ 日本山岳会事務取扱時間
月・火・木 ……10~20時
水・金 ……13~20時
第2、第4土曜日 ……閉室
第1、第3、第5土曜日 ……10~18時
▶ 図書室開室時間
日曜・祭日・月曜日を除く毎日 ……
……………13~20時



平成 5 年春に竣工した現在の「さんけん」

■上高地山岳研究所のこと

山岳と登山に関する研究、講習、および海外の山岳団体との交流を目的として、昭和三十六年に当時の日本アルプス案内人組合安曇支部が使用していた建物を譲り受けたのが、現在「さんけん」と呼ばれている施設の前身である。

木造平屋の小屋は、組合が使用する前は、警察の派出所であったようだ。バスターミナルに案内人組合の建物ができ移ってしまったために空き家となり、いろいろなところから使用申し込みもあったらしい。場所が国立公園地域内であり、特別の計らいで黙認されていたらしく、本来の目的以外での使用は認められなかったようだ。

信濃支部の方々のご尽力もあり、「全国的な登山組織である社団法人の日本山岳会が登山技術研究所とし

て使用するものであるのなら」という極めて好意的な理由付けで、この土地を所有する松本営林署などが中に入ってくれて借り受けることができた(この間の事情は会報三六二号に日高信六郎元会長が書かれている)。当初は上高地山荘と呼ばれ、六畳八畳各一と四畳半二の四つの客室に炊事場、風呂場がついて、収容人員は二十名であった。平地にあった民家をそのまま移築した小屋は使い難く、老朽化も激しかったため、昭和四十八年に建て替えることになった。

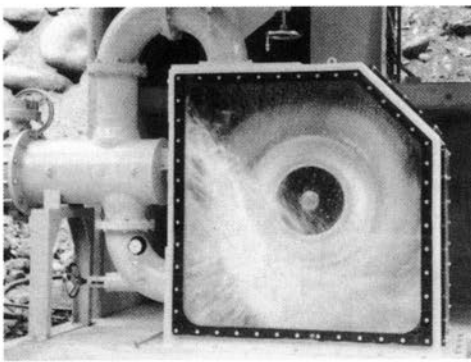
大石長官の率いる環境庁指導のもと、日本の自然を護ろうとの機運が全国的に起こりはじめたなか、スタートした二代目の建築は、「国立公園内に山小屋を建てることなどおおいそれと許可できない。社団法人たる日本山岳会あたりは、それに最も協力してくれる立場」という関係各庁

の意向も、公益法人としての立場から自然環境と山岳の研鑽、登山や環境保全に関する講習会などを実施するという当会の目的に、理解を示し新築許可であった。

三代目の山研は平成五年春に地上二階、地下一階の建物として誕生した。地下一階は資料展示室として、山岳資料や環境保全に関する展示を中心に、四月末の開所から十月末までの期間を一般公開として、当初の意志をいかした施設となった。

かけがえのない地球を、自然と調和しながら次の世代へと引き継ぐというメッセージを込めて、昨年夏にはCO₂削減の一端として「自然エネルギー展」を科学委員会、資料委員会と共催で開催した。

水力、太陽光、風力の自然エネルギー



ペルトン水車 写真/林エンジニアリング(株)提供

ギー有効利用の特別展は、観光客、山小屋関係者など多くの来所者を迎え、またマスコミなどにも大きくとりあげられた。

年間二百万人ともいわれる観光客、それを受け入れている上高地に対して、日本山岳会が公益法人として「何ができるか」「何をしなければならぬか」を考え、地元と協力しながら行動するときにきているとの認識から、山研運営委員会は行動してきた。

同時に、会員懇親の場としての山研をアピールする企画も立て、新会員を対象とした登山と講演を青年部と共催で行っている。また、地元で生活している人たちの懇親を目的としたミニ・コンサートを山研で開き、お互いの理解を深めることにも努力してきた。この催しは今後も継続して行われる。

現在の山研の新築と同時進行の形で、実験のためのミニ水力発電計画があり、環境庁、中信森林管理署(旧松本営林署)などと交渉を続けてきたが、神奈川工科大学との共同研究ということで、許可申請書を提出する段階になってきた。

山研における水力発電は、施設で使用する電気をまかなうのが目的でなく、あくまでも実験としてのものである。実験により得られるデータ

は会報や山岳雑誌、学会などで機会あるごとに公表し、また、発電施設は一般公開する予定である。

(山研委員会担当理事 坂本正智)

■実験としてのミニ水力発電計画

鳥居亮会員らによって長い年月をかけて検討されてきた山研の水力発電計画は、やっと具体性を持ったものとなってきた。計画の目的は、

①ミニ水力発電が環境にやさしい方式であること。

②流量と落差が確保できることで非常に有効なシステムであり、

③その成果を上高地を訪れる見学者をはじめ多くの方へ訴えていくことである。

したがって、そこで発電された電力の一部は生ごみ処理(約七〇ワットの電気を昼夜に関係なく常時使用する)などにも使用し、環境保全にも役立てるものである。

将来的にはこの電源を用いて、山小屋などの尿処理のモデルケースをつくることにも挑戦してみたいと考えている。

また、実験概要が一般の見学者にも一目で理解できるように、左図のような表示盤を、山研裏に新たに設ける発電機室内に展示したい。

山研の裏手数百メートル上部の善六沢に、七五ミリパイプ二本を入れ

て取水し、サージタンクに送る。取水する水量は沢の二パーセント以下(濁水期でも八パーセント以下)であり、生態系に影響はないものと思われる。取水の際に流入する土砂類は、大きなものは取水口に設けたフイルターで除去し、細かいものはタンク下部に沈殿させるようにする。サージタンクからは七五ミリパイプ一本で発電機まで送水し、オーバーフローした水は元の沢へ戻すようにする。

こうして得られた水を、高低差にして約五〇メートル下にある、山研裏手に新しく作る発電機室(一・五坪)に送る。

タンクから発電機室までは三〇〇メートル以上もあり、送水パイプが長くなってしまったために管摩擦などによる損失が生じて、発電に直接寄与する有効落差は約三六・五メートルになると見込んでいる。

流量は設計上では毎秒五リットルであり、タービンと発電機の効率を考慮すると約八〇〇ワットの発電量が得られることになる。水力発電は二十四時間常時発電するため、この発電量を天候など気象条件の影響を受ける太陽光発電設備に置き換えると、七・八キロワットに相当する。

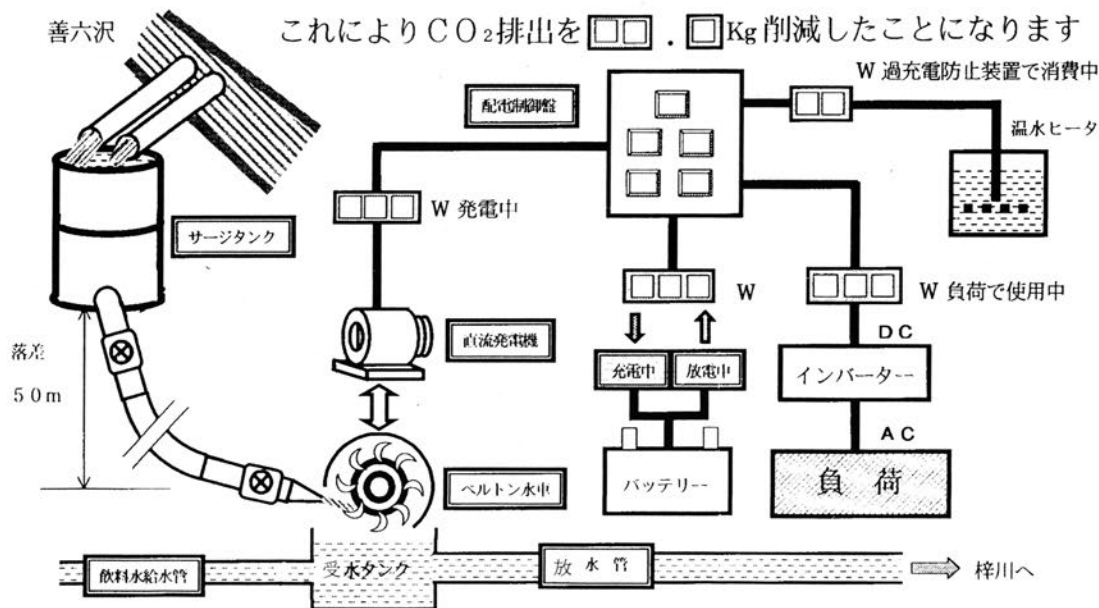
水力発電装置のタービン部は、高落差小水量向きのお椀の形をしたベ

日本山岳会上高地山岳研究所ミニ水力発電システム

今シーズン初めから積算した発電量は . KWhです

この値は火力発電の燃料原油に換算すると . lに相当します

これによりCO₂排出を . Kg削減したことになります



ルトン水車(写真参照)を用いる。そして水が勢いよくあたる回転部分は、外部からもよく見えるように外枠を透明のプラスチックで特別に加工している。

発電機部分は、小容量のために三相交流発電機を用いるが、電圧制御を容易にするため出力は直流二四ボルトに変換している。最大出力は前述のように八〇〇ワットを見込んで、将来のことを考慮して、設備としては一キロワットで設計されている。直流出力は、負荷の変動を吸収するためバッテリーをフロート状態で使用する。

生ごみ処理のような常時一定の負荷に対しては、バッテリーは最低限の容量でよいが、非常時(商用電源が停電したときなど)を考慮して、必要に応じて照明や他の電気機器の電源として使えるように、一二〇アンペア(トラックに搭載されているバッテリー)四台を用意する。

発電に使用した水はまったく汚染されていないので、いったん受水タンクに入れた後、一部は山研の飲料などの生活用水として使用し、残りの水は七五ミリパイプで梓川まで導水する。

したがって善六沢で取水したわずか毎秒五リットルの水は、発電に使用したのちに一部を飲料水として使

用(現在も発電計画と同じルートを生生活用水のパイプが通っている)するほかは、汚染のない水をすべて梓川に戻すため、環境面から見ても優しいシステムになっている。

このミニ水力発電計画は、今年度の山研開所(四月二十八日)から工事に着手できるよう、現在環境庁などに申請中であるが、許可のあかつきには、工事にあたっては上高地の自然を損なうことのないように留意するとともに、できるだけ会員のボランティアで、自らの手で作り上げることに、本計画の主旨がより生かされるようにしたい。

(科学委員会担当理事 森 武昭)

花の山旅 5~6月はペルーアンデスの花の季節です。

アンデス・ブランカ山群トレッキング 11日間

①東京→リマ ②ワラスへ ③ワラス ④ヴァケリアへ ⑤バリア谷へ ⑥タウリバンバへ ⑦ヤマコラルへ ⑧ワラスへ ⑨リマへ ⑩機内 ⑪東京へ

〈出発日〉●5/29 ●6/12 ●6/26 ●7/15 ●8/2 ●8/25 ●9/13

450,000円~580,000円(8/2発)

新 総合カタログ(全138ページ)ご請求下さい。



ALJAPAN TRAVEL SERVICE 株式会社

〒105-0003 港区西新橋1-12-1(西新橋1森ビル) TEL.03-3503-1911

大阪 ☎06(6444)3033 名古屋 ☎052(581)3211 福岡 ☎092(715)1557

ガンカー・プンスム峰登山隊 計画延期の経緯について

実行委員長 大森薫雄

三月十日、理事会は今春に予定していたガンカー・プンスムの登山計画を延期する決定をした。

この計画については、平成十年五月八日から十日にかけて、斎藤会長、大森、伊丹、吉永、宇田川が中国登山協会の四十周年を祝って北京に表敬訪問した際、曾曙生首席からガンカー・プンスム合同登山のことが話題になり、これを受けて高所登山研究委員会のレベルで検討することになったものである。

平成十年七月二十五日、斎藤会長、大森、伊丹が読売新聞社水上会長を訪問し、ガンカー・プンスム登山隊についての後援を依頼した。

九月二十五日、読売新聞社迫田運動部長より「日本山岳会の登山隊であれば後援することが決定しました」との連絡をいただき、十月十四日から十一月十七日まで、伊丹、中村、山本、井原、宮坂、佐藤からなる偵察隊が出発し、連絡官張江援氏の同意のもとにルートの確認をして帰国した。

十二月十六日、常務理事会の了承のもと、第一回の実行委員会を開催

し、登山隊のあり方、国境問題などが検討された。十二月二十八日、中国登山協会の曾曙生首席から「わが国の政府関係部門と連絡した結果、中華人民共和国チベット自治区とブータン王国の国境線上に位置するガンカー・プンスム峰については中国とブータン国境の伝統線上にあり、双方はこれに対して争議がありません」との手紙をいただいた。

これを踏まえて、平成十一年一月六日、読売新聞社は「世界の未踏峰の中では最高峰として、登山家の注目を集めている中国チベット自治区とブータンの国境線上にあるガンカー・プンスム峰(七五七〇メートル)に今春、日本山岳会が挑戦します」という社告を出し、「ガンカー・プンスムへの道」と題して計五回にわたって偵察隊の現地調査報告の記事を掲載した。

二月三日、実行委員会を開催し、隊員の選考、資金計画、今後の日程登山計画について検討が行われた。

二月六日、中国登山協会の交流部長張江援氏ほか二名が来日された。その歓迎会の席上、張江援氏より

「ガンカー・プンスム峰登山について、中国政府から中国登山協会に延期するよう要請があった」との報告を受けた。

二月十三日、外務省文化第二課より山岳会宛に文書(二月十二日付)による照会があった。

「ガンカー・プンスム峰はブータンにおいては神の住処として信仰の対象となっており、ブータン政府はこれまで何人に対しても同山への登頂を許可してこなかった。たとえ中国側より同山への登頂を開始したとしても、頂上を極めるためにはブータン側領土を通過せざるを得ず、仮に日本の登山隊がブータン政府の忠告を無視して登頂を行った場合、ブータンにおける対日感情に悪影響を与えかねない。本件問題はウォンチェック国王の知るところとなっており、同国王も心を痛めておられる」との申し入れが在インド・ブータン大使館より、在インド日本大使館へあった旨報告をいただいた。

このことについては二月十五日、伊丹隊長が橋本龍太郎会員に相談した際、外務省へ説明に行くようアドバイスを受け、翌十六日、伊丹、中村、山本で外務省文化第二課を訪問。登山計画の経緯と内容を説明し、ご理解をいただいた。また、今後の方針が決まり次第報告することにした。

ネパール国際山岳博物館 募金応募状況

表記の募金にご協力くださった方々のご芳名を掲載し、お礼に替えさせていただきます。(敬称略)

2名 4口 20,000円 (3月5日現在)
累計937名 2676口 13,406,517円

●2口 (10,000円)
五月女進一 岡沢修一

二月二十五日、緊急実行委員会、臨時常務理事会を開催。今後の対応を協議するも、中国側からの公式な情報がないので、春節を考慮してしばらく待つことになった。

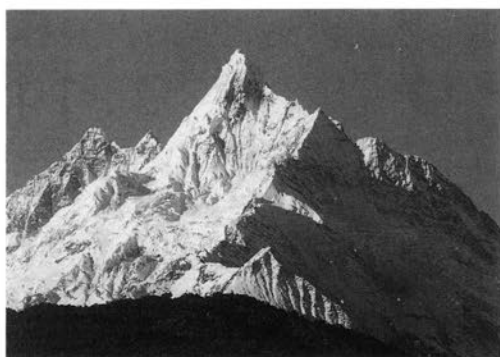
三月三日、中国登山協会から「宗教的感情が原因でブータン政府はガンカー・プンスム登山に対し、強い不満の意見を申し入れてきました。中国の関係機関はこの意見に配慮したのです」との手紙をいただいた。ここに至って、三月十日の実行委員会、および理事会において正式に先に述べた決定をみたので、ここにその経緯を報告し、ご理解を得たいと思う次第である。

最後に会員の皆さまからご心配いただき、いろいろご意見をいただいたことに厚くお礼申し上げます。

海外の山

シャングリラと
熟年探検家

江本嘉伸



「シャングリラの里」から望むメンジボ峰 (6054m)、撮影・中村保氏

「はるかなる雲南」が近くなった。三月二十八日から昆明行き直行便が関西空港から飛び立つようになったのだ。週二回の就航である。

「映画『中国の鳥人』の舞台」が、旅行会社のうたい文句だが、筆者が雲南と聞いてイメージするのは「能海寛（のうみゆたか）の最期の地」と

いうことである。

「帰れなかった探検家」能海寛は、鳥根県出身の学僧だ。インドに発した仏教の本質を極めるためには大蔵経を入手しなければ、と東本願寺を説得、一八九八（明治三二）年十一月十二日、チベットに向かった。

同じ東本願寺の寺本婉雅とともに翌一八九九年七月から八月にかけて、東チベットのリタン、パタンに入り、日本人としてはじめてチベットの地に立った。

しかし、目的とするラサには入れず、以後青海省からの入蔵にも失敗、一九〇一（同三四）年四月、雲南省奥地の麗江で「身を惜しまず」の恩師への書簡を最後に消息を絶った。同じ時期にチベット入りをめざした黄檗宗の僧、河口慧海はその直前の三月、ラサにたどり着き、明暗を分けた。

その能海の終焉の地が、一世紀を経てほぼ確認された、という最近の報道を読まれた方もいるかもしれない。

本会会員で『ヒマラヤの東』の著書もある中村保（六十四歳）が、能海の足跡を追って中国の旅を続け、昨年十二月にはついに能海が殺害された、とされる雲南省の奥地徳欽（デーチン）県の北にある「屏風岩」

にたどり着いたのだ。

こんないきさつがある。能海の不明後二十二年たった一九二三（大正十二）年、郷間正平という日本人旅行者が現地を訪れ、フランス人麝香商人から「一九〇一年十二月中旬、ひとりの日本僧がラサをめざして阿敦子（徳欽のこと）を出発し、その日のうちに付近の関所でクーンソ族と呼ばれる現地住民に殺された」とを知った。

中村は、最近になって能海寛研究会の会員が当時の仏教新聞から見つけたこの情報をもとに、昨年十一月現地へ向かい、十二月はじめ、徳欽の北の峠を下った標高三三〇〇メートルの場所に郷間のいう「屏風岩」を確認したのである。物証はない。しかし、GPS装置を使って峠との距離や位置を確認し状況からしてここに間違いはない、と判断した。

能海の最期の地となった雲南の奥地では、一種独特な争いが進行していた。徳欽と中甸、さらには麗江、維西といった町も加わって「うちこそシャングリラ」と、主張しあっているのだ。

ジェームズ・ヒルトンの『失われた地平線』は、一九三二年五月、飛行機が不時着して生き残った四人の物語である。永遠の若さが保たれるそ

の桃源郷は、チベットのどこか、近くにキリスト教会がある、「打箭府」という場所に近い、などがヒントとなっている。無論、架空の物語なのだが、開放経済が進行する中国である。話題性があることなら何でも観光誘致の目玉にしてみよう、というしたたかな思惑があつて、シャングリラは勿論絶好の対象となった。

徳欽県では、中村に「確認書」を贈っている。「我が県の神秘的な自然と特異な多民族の風俗文化についての貴殿の深い知識が評価され、徳欽香格里拉研究会の正式会員の資格を貴殿が取得したことを茲許連絡申し上げます」というものだ。

能海寛のような人が殺される場所は、平和なシャングリラにふさわしくない、とライバルの町や村は反発し、それぞれが「わが町こそ」と主張している。

一九九〇年以來、四川、雲南省の横断山脈への旅を続けること十六回、いまではヒマラヤの東については、世界でも屈指の存在となった中村は、この五月も雲南省からビルマ北方のチベットをめざす。その踏査報告は英国のアルパイン・ジャーナルなどにも掲載される予定だが、シャングリラの判定役だけは避けたい、と言っている。

南側からの視点

―ブータン・ヒマラヤ、中国・ブータン国境について―

吉永英明

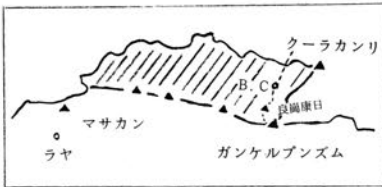
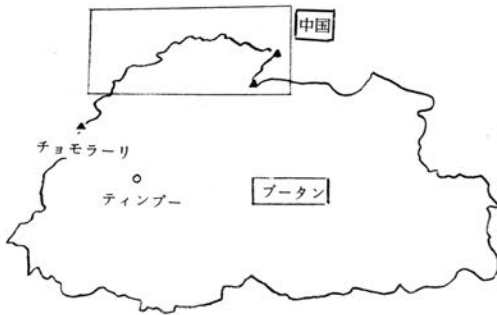
今春に予定していた「日本山岳会・崗嘎普松登山隊一九九九」(ブータン名ガンケルブンズム、七五七〇メートル)は、中国登山協会から出発を延期して欲しいとの要請があったため、残念ながらとりあえず実施延期ということになった。

ブータンにとってガンケルブンズムが「聖なる山」であるための宗教上の理由からであろうと憶測する向きもあるが、ブータン政府は過去四回にわたって、日本隊ほかの外国人に登山許可を発給していること、同

じ「聖なる山」とされているチョモラーリ(緯莫拉日、七三二四メートル)に一九九六年西側のチベット側から長野山岳協会隊が登山しており、ブータン側は何らの動きをしていなかったことからして、説得力に乏しい。

また、中国・ブータン間の国交樹立が近いという観測から、中国政府がブータン側を慮ったためであろうとする見方もあるが、両国間の国交交渉が詳らかに報道されていない今日、何とも言えない。今回の事態は、

ブータンの地図より



両国間の国境問題に起因していると思われるため、この際、ブータン・ヒマラヤの国境線について南側からの視点で考えてみたい。

もともと、ブータン側の地図によれば、政府発行の年次計画書、統計書はもちろん、観光部発行の地図に

至るまで、すべて国境は図のようになっている。すなわち、東からヒマラヤの主稜線をたどってくる国境線が目下の未登の最高峰であるガンケルブンズムから北東方約二六キロ(直線距離)に位置するクーラカンリ(庫拉崗日、七五三八メートル)に至る線になり、ここから西方へは七〇〇メートルクラスの未登峰が並ぶ主稜線の北側を南西方向に向かうというふうになっている。

一方、中国側の地図によれば、ヒマラヤの主稜線を「伝統線」という言葉で両国の国境としており、ヒマラヤ主稜線北側部分の帰属についての両国政府の主張が異なっている。図の斜線部分、約三〇〇平方マイル(約七五〇平方キロメートル)がこの部分であるが、現在、中国の実効支配下であり、ブータンの実効支配はおよんでいない。たとえば、一九七四年に指定されたブータン・ヒマラヤ地域の国立公園、ジグミ・ドルジ国立公園の区域からも除外されていることからそのことが伺える。

しかし、この国境線はイギリスがこの地域に影響力を持っていた二十世紀初頭からの歴史があり、インド政府がブータン外交に対する助言権を持つとされていた一九四九年のインド・ブータン条約によって、インド政府は一九五九年以降、相当強硬

に中国に対し地図の訂正を求めているし、一九六〇年、ブータン国会も中国の地図に間違いがあることを指摘し、ブータン領であるとの主張を明確にしている。ブータン側は一九八四年以降、両国の国境画定交渉を続けているようで、昨年、十月と十一月、学生部の登山隊に同行してブータンを訪れたおり、トレッキング・登山所管の通産省観光部(Tourism Authority of Bhutan, TAB)を訪問して質問してみたところ毎年、北京とティンブーで交渉をしていると言っていた。

さて、今回のチベット側からの「崗嘎普松登山隊」であるが、そのルートを見るとクーラカンリの西側を通って「崗嘎普松」の北方約二二キロ付近(ナムサン氷河とリヤンカン氷河の合流点)にベースキャンプを設け、「崗嘎普松」の北方約三キロほどの「良崗康日(リヤンカンカンリ、七五三四メートル)」を越えて登頂を目指すことが予定されている(図の斜線部分)。ブータン側からみれば、歴史的なブータン領を通過するルートと判断するのは明らかである。

ブータンは、人口約六十万余人という小国であるが、一九七一年に国連に加盟を果たし、現在、二十カ国以上の国々と国交を結び、インド、

バングラディシユ、クエートに大使館をおくほか、ニューヨークとジュネーブに国連代表部を持つ独立国である。また、IMF、UNCTAD等の国際機関にも加盟している。昨年、TABを訪れたおりも、ブータンは独立国であると強く言われたことが印象に残っている。小国ほど領土、主権に敏感である。確かにブータン・ヒマラヤは未登の山が数多く残る魅力的な山域であるが、入域に關しては南側からの視点にも十分に配慮する必要がある。

ガンケルプンズムは、目下の未登の最高峰で、世界の山岳人にとって垂涎的といえる。もし、現在の国際情勢の下で中国側からの登山の可能性を探るとすれば、クラーカシリ山群の南側を大きく巻き、北東側から「崗嘎普松」に接近するという歴史的なブータン領を通過しないルートはどうだろうか。もちろん、その場合も南側への対応に配慮するのは当然であるが……。

なお、中国・ブータン国境の歴史的確推移に關しては、『シッキムとブータン』(V・H・コエロ著、三田幸夫/内山正熊訳、一九七三年、集英社)『The politics of BHUTAN』(Parmanand著、一九九八年、PRAGATI PUBLICATIONS)に詳し。

全国二十四支部事務局 担当者が集いました

二月二十七、二十八の両日、全国二十四支部の実務者が集い、支部事務局担当者会議が開催された。

二十七日(土)、九段会館鳳凰の間で午後一時より斎藤惇生会長の挨拶のあと、平林克敏会長が「熱き心でJACを語る」と題して講演を行った。山登り、企業の両面の貴重な体験を通して、フロンティア・スピリッツの重要性を訴え、支部の活性化を説く話に、全員が聞き惚れた。

コーヒーブレイクのあと、テーマシンポジウムの「支部を考える」に移り、北海道支部・長谷川雄助会員、宮城支部・千石信夫会員、広島支部・吉村千春会員が、それぞれの支部の現状と活性化の試案を熱く語った。各支部間の討議ののちまとめに入り、懇親会に移って一日目の幕を閉じた。

二月二十八日(日)は、日本山岳会会議室に場所を移して、午前十時より総務の絹川祥夫理事より会務報告さらに百周年記念事業「新日本山岳誌」編集、平成十一年度全国支部懇談会(岐阜支部主管)、日本山岳会「団体傷害保険」についてなど、熱意のこもった打ち合わせを行い、昼

食懇親のあと閉会となった。

出席者

(村井 葵)

北海道(長谷川雄助)、青森中村勉、岩手(松田和弘)、秋田(佐々木民秀)、山形(長岡伸恭)、宮城(千石信夫)、福島(野地克也)、越後(田邊信行)、信濃(古幡開太郎)、山梨(小宮山稔)、静岡(水野公男)、東海(小川繁)、岐阜(堀義博)、京都(野村誠人)、富山(高柳清美)、石川(樽矢導章)、福井(宮本数男)、関西(川戸昭三)、山陰(中井俟二)、広島(吉村千春)、福岡(深田泰三)、東九州(西孝子)、熊本(田上敏行)、宮崎(新武八起)

ネパール・日本研究 センターへの図書寄贈に 礼状が届きました

現在カトマンズのネパール・日本研究センターには、本会名誉会員であった故クリシュナ・B・バルマ氏が、多年にわたり収集された貴重な図書や資料がライブラリーに保管されており、活用が期待されている。

昨秋、ネパール国際観光年記念トレッキングの一行が出発前に、同研究センターの専務理事であるラム・クマール・パンデー氏(クリシュナ氏の女婿でトリバン大学地理学科の主任教授)より、同ライブラリ

ーで役に立つような本を参加者一人一冊ずつ持参して寄贈していただけないかとの要望が届いた。そこでトレッキングの参加者に協力を呼びかけたところ、ほぼ全員の賛同が得られ百二十冊の本がカトマンズに持ち込まれた。

これらの本は十一月二十六日のパーティー会場(ホテル・ヒマラヤ)ロビーに展示され、パーティーの席でパンデー教授に贈呈された。これらの本の中には英文のJapan Illustrated Encyclopediaや豪華な棟方志功版画集をはじめ、ヒマラヤや日本の山の写真集、美術図鑑、動植物図鑑、日本料理、茶道、生花、子供の絵本に至るまで、各人が智慧を絞った「この一冊」が寄贈され、大変感謝された。返礼としてパンデー教授より、同研究センターで刊行された「ネパールにおける日本語教育」の英文パンフレットが贈られた。

その後パンデー教授からこれらの本は研究センターに展示され、「利用者」に喜ばれている。ご協力いただいた各位によりしくとお礼のメッセージが届いている。

●その後パンデー教授から、教授の著書、ネパール・ヒマラヤの高度地理学などの本四冊(「山」六四五号図書受入報告欄に記載)が寄贈された。

(松田雄二)

JAC 支部だより



全国各地の支部から、独自の活動状況を
レポートします。

宮崎支部

「みやざき百山」執筆完了

―祝賀の夕べと記念登山― ―一步一步の低速文化?―

宮崎支部は、昭和六十年（一九八五）日本山岳会の二十番目の支部として産声を上げた。結成時の三大目標の一つに「宮崎百山の選定と刊行」が計画された。作業はカタツムリにも似て遅々とした速度であったが着実に歩を進め、高度を上げながら十四年の星霜を重ね、ようやく山頂に到達することができた。

宮崎百山の選定は、県内三百山の中から百六十八山をピックアップし、百十山に絞り込んだ。さらに論議を重ねて百山とし、執筆に着手して、九十五山に到達したのが平成十年の夏であった。

主筆の大谷優支部長と、これを支えるセツ子夫人（会員）の二人三脚による現地調査は十数年におよび、まさに血と汗のにじむ山行であった。それぞれの山に関する神話、伝説、歴史、文化遺跡、民俗、動植物、地質、自然形態などの調査研究により、豊富な資料の集積によって文章は作成された。

研究会では、文章作成の進捗状況によって毎月論議を重ねていたところ、地元宮崎日々新聞社が感知。同紙へ毎週一回（A三判のスペース、カラー写真三枚、登山コース図、文章八百字程度）掲載したい旨の申し入れがあった。宮崎支部において検討の結果これを了承し、平成十年九月十日から掲載が開始された。

■意外な県民の反響に驚く

文章はエッセイ風にまとめられたもので、その重量感と爽快感に加え、山と花の写真が評価された。新聞発表直後から県民の反応は顕著で、読者の投稿欄には「懐かしう読んだ宮崎百山」、「写真素晴らしい宮崎百山」、「健康ウォークに登山を探り入れて」、「みやざき百山すつかりとりこ」、「国見山の写真にすつかり魅了」など数多くの意見が寄せられた。掲載された山は登山者が急増し、登山者名簿を備える地区まで出現したという。

このような県民のバックアップもあって、平成十年十二月三十日「みやざき百山」は執筆を完了した。これから出版までのプロセスには、サブタイトルに百花・百想や山・花の写真の選定などに熱い論戦が展開されよう。

祝賀の夕べは、会員二十人が集い一月三十日、綾照葉樹林の一角にあるホルト山荘（住人・本城武会員）の紅梅咲き乱れる庭で開催した。大谷優支部長とセツ子夫人に対してその労をねぎらい、感謝の意を込めて花束を贈り、カッポ酒で乾杯し、焼き肉に舌鼓を打ち、山の歌を合唱してこの快挙を祝い、寒冷の夜の更けるのも忘れていた（綾町竹野公民館・全員宿泊）。

明けて三十一日は、綾照葉樹林の真つ只中にある七熊山（九二八メートル）に記念登山である。陽光に輝くシイ、カシ、タブなどの生い茂る自然林や、かつて須木村と高岡・赤谷を結ぶ塩の道であった峠の俵集積所跡を歩きながら、汗を拭くのも忘れて、悠久に流れるひとときを過ごす記念登山となった。（井野元繁）

秋田支部

八塩山に登る

曇り空の多い秋田でも、十一月の

文化の日には好天に恵まれ、この日から一週間ほどは菊花香るさわやかな秋空が広がる確率が高い。台湾に遠征した元氣組の留守役に回った老年組は、十一月八日、友人知人を誘っての八塩山登山で、全国支部懇談会秋田・男鹿集会以来の山行を楽しんだ。

八塩山は標高七二一メートル、秋田県沿岸南部の由利郡東由利町にあり、南方に鳥海山を目前に眺められる絶景の山だ。山名の由来や信仰との結びつきは定かでないが、鳥海山の西麓にある月山、小八塩山と呼ばれる里山には神仏にかかわる伝承があり、これらの山と指呼の間にあつて、しかも稜線上で結ばれていることから、何か由緒はあるかもしれない。

山麓には広大な牧場が広がり、大きな用水ダムを中心にした町民憩いの森公園がある。キャンプ場もあつて多くの家族連れでにぎわう。周辺の斜面に、春には山桜が咲き誇り、中でも数本の黄桜が観光の目玉になっている。

さて、三方にある登山口のうち、最もポピュラーな風ピラ登山口から十三名、落葉した木々の間を縫って出発した。難しいコースではないが、支尾根に取りついたあと約三十分の直登はこたえる。それでも眼下の景色が目に入るのて心は弾む。

やがて、ブナやナラの平坦な林間に出ると、約十分で頂上である。その手前、先ほどの小八塩山への分岐があるが、途中で途切れて、しかも藪になっていて縦走はきつい。三角点はこの分岐点そばにある。頂上には古びた八塩神社社殿があるが参拝客の姿はなく、朽ちるに任せる状態だった。

落伍者もなく、全員が一時間ほどで頂上に立ち、記念撮影のあと昼食しばし、下界の喧騒を忘れた。

(岡田光行)

北海道支部

ニセコ・目国内岳雪洞登山

目国内岳(めくくないだけ、一二〇メートル)頂上への稜線が、濃いガスの合間から時折うつすらと姿を見せる。最後の登りが急斜面になり、下りの深雪スキーを楽しみにさせてくれるが、昨夜降った新雪三〇センチのラッセルの疲労と、表層雪崩の心配が大きい。十五名の参加者はトップを交代しながら黙々と吹雪の頂上へ向かう。

数日前から北海道は大荒れで、国道も地吹雪状態。昨日(二月六日)の新見温泉集合が危ぶまれたが、予定通り昼過ぎまでに全員出発できた。スキーを着けても膝上までのラッセル



風雪の目国内岳へ参加者全員が登頂

ル、加えてニセコらしからぬ重い雪で、久しぶりに苦しいラッセルとなった。

一時間半後、枝沢の雪庇を利用して雪洞を掘りはじめ、二時間程度で五、六人用二個が完成。それを通路でつなぎ、中央部分を集会場とする。夕食のあと、中村喜吉リーダーから明日の行動予定と注意があり、一月三十一日、アイスクライミング講習後に層雲峡で墜落死した北海道を代表するクライマー・三和祐佑氏に黙禱を捧げ、彼の活躍の足跡を夜更けまで話し合った。外はまだ雪が降り続けている。雪洞からもれるローソクの光が灯明となった。

二月七日八時、雪洞を出発。新見の沢本流を渡り、対岸の山腹を横断

気味に登り、目国内岳の南面を直接頂上へ向かうルートとした。頂上のタイムリミットを十一時としたが、三十分遅れで全員がそろった。吹雪の頂上に長居は無用。下る準備はできているのだが、許可が出ない。今回は「カムイミシタラ」の取材で大内睦弘氏が参加。写真背景やポーズにプロの注文が多く、よいシャッターが押せないでいる。年寄りの多いメンバーは、ポーズなどどうでもよい連中ばかりなのだ。記念写真のナップ撮りも大変である。

さあ、いよいよ深雪スキーの開始だ。全員を三グルーブに分け、それぞれ思い思いのシユブールをつける。

年は取ってもさすが北海道の岳人、スキー技術は抜群である。丹羽、藤野、榎田、紺野、そして紅一点のお啓さんと続き、表斜面を舞うように滑っていく。感心するばかりだ。快調に滑り下ったせいとか、ほかの登山者の別ルートのトレースにだまされてしまったようだ。沢へのトラバースルートを九〇度取り違えてしまった。しかし深入りせず、もとの地点にすぐ戻ったのが幸いして、事無きを得た。再度下降のはじまり。あとは一気に雪洞を目指すだけ。新雪斜面のダケカンバの森林帯に、童心に帰ってスキーに興ずる会員の姿があった。

(桜井 仁)

●新ハイキング選書● ●第20巻好評発売中●

一等三角点の山々

山口ゆき子/横山 隆/高柳生雄/川越はじめ/
岡村美邦共著

A5版・310頁・定価1680円(税込)掲載の山 80山

新ハイキング社の一等三角点の山シリーズの三部作「一等三角点の名山100」「一等三角点の名山と秘境」「一等三角点の山々」も発売中

※3冊とも山は重複していません

●日本山岳会選定●話題の本・8刷増刷

日本300名山ガイド

〈東日本編〉〈西日本編〉

市川静子、岡田敏夫、岡部紀正 A5版・320頁

川越はじめ、廣澤和嘉 共著 定価各1680円(税込)

※著者はすべて日本山岳会会員です

新ハイキング社 東京都北区滝野川 7-6-13

☎(03)3915-8110 振替 00130-9-146915

のー山わが支部とっておきのー山わが支部とっておきのー山わが支部とっておきのー山わが支部とっておきのー山

「わが支部とっておきのー山」PART II

「わが支部とっておきのー山」PART IIの大好評にお応えして、PART IIを掲載します。ガイドブックにもあまり出ていないけれど、春の新緑、夏の溪流、秋の紅葉と、各支部自慢の山ばかり。そっとしておきたい山ですが、会員の皆さまにだけご紹介します。



前年に引き続き、晩餐会特別企画展として平成十年十二月五日の会場に展示したものを、会報を通じて順次紹介して行く予定です。各支部から会員に向けての「山に関する情報発信」です。これを機会に会員相互の交流促進に役立てていただければ幸いです。

今回の「とっておきのー山」は上図のとおりですが、前回よりさらに味わい深い山が多く、あまり知られていないながらも魅力にあふれる山ばかりです。ご期待ください。

本企画は今回のPART IIをもって終了します。展示会場では参加者の関心の深さに並々ならぬものを感じ、さすが同好の士はお互い見る目に狂いはないと思いました。会報に掲載してからは、全国の会員からの反響はもろんでしたが、会員以外(とくに玄人筋?)からの評価も高かったようです。ただ気をつけなければならぬことは、公開したことで、これらの山が踏み荒らされないか、ということ。有名になったとたん、ブランド志向の登山者に踏み荒らされて、見るも無残な山に変貌するのを見ています。ひっそりと人に知られていない山、派手さはないが心に残る山、そこを訪れると心落ち着く山、誰もがそんな自分一人だけの山や場所を持つているはず。そこは誰にも知られたくない、独り占めにしたい、でも会員にだけはそっとお知らせしよう、というのが発端でした。支部長はじめ支部会員の方々のご理解があつて、初めて実現したことです。会員の皆さまも特段のご配慮を払って登っていただきたいと思っています。

(総務委員 中村 昭)

わが支部とっておきの一山わが支部とっておきの一山わが支部とっておきの一山

関西支部

オリーブの島の岩山にはえた巨峰

しょうどしま おやゆびだけ

小豆島・拇岳 (約241m)

瀬戸内海国立公園に浮かぶオリーブの島、小豆島。港に近づくると隆起した丘陵が迫ってくる。登山口の橋にさしかかると、親指をそえて握りしめた手のように見える大きな岩場がどっしりと姿を現す。拇岳がそれである。標高371.4mの千羽ヶ岳の前衛として、高度差約130mの岩峰で、古くから関西や四国などのクライマーたちに親しまれてきた。岩場は、西壁、正面壁、右岩壁からなり、何本ものルートが開かれている。ほとんどが人工ルート。

岩場の基部を右へと巻きながら登りつめて行くと、一般の登山コースとなり簡単に拇岳に立つことができる。ここから正面壁や右岩壁の雄々しい姿を違った角度から見、さらに登山道を登り千羽ヶ岳山頂に立つと、草壁港が指呼の間に見える。

1	コースタイム	橋バス停—40分—岩場の基部—20分—拇台—30分—千羽ヶ岳山頂
2	地図	国土地理院発行 (1/25,000) 地形図 草壁
3	交通	関西急行フェリー (姫路～福田) —バスで橋へ 関西急行フェリー・TEL 087-851-8171 小豆島バス・TEL 0879-62-1210
4	付近の観光地	寒霞溪：地名の由来はその昔、応神天皇が小豆島に狩りをしたとき、岩角に鉤をかけて登ったということから、鉤懸、神懸に変化して現在の寒霞溪になったと言われる。凝灰質の集塊岩が浸蝕されてできた奇峰、奇岩がおびただしく、花崗岩、安山岩などに覆われた大岩壁は、秋の紅葉に映えて目を楽しませてくれる。近くには小豆島最高峰の星ヶ城山(817m)がある。 小豆島観光協会 TEL 0879-62-5300
5	参考図書	『日本登山大系 関西・中国・四国・九州の山』(白水社刊) 『日本の山河・天と地の旅』(国書刊行会)
6	問い合わせ先	阪下幸一 (9012) 安井康夫 (8494)

山梨支部

展望良好 懇親山行にうってつけ

おおくぼやま

大久保山 (1241.7m)

地図上に三角点記号はあるが、山名表記も破線すらない。山頂からの展望もなかった。それが思わぬことから日の目を見ることになった。県営葛野川発電所の建設とともに18号鉄塔が山頂に建ち、その余慶にあずかり俄然展望がよくなった。北は一等三角点の黒岳(点名小金沢山)、旧五百円札の裏に描かれた富士山撮影地の雁ヶ腹摺山(がながはらすりやま)。目を南に転ずれば、鶴ヶ鳥屋山(つるがとややま)や滝子山の尾根の上に、三ッ峠を右に従えた富士山を望む。

ルート上に指導標は皆無、入山口の間明野(まみょうの)金山神社より西進、切目峠から尾根上の踏み跡を忠実に北上して山頂へ。西に送電線巡視路を下り、恵能野(えのうの)に下り、遊仙橋で大月行きのバスの人となる。山頂は広く20人くらい車座になれるので、懇親山行の適地。久保とは山中の小早地を表す地域語である。

1	コースタイム	間明野—30分—切目峠—2時間—大久保山—2時間—恵能野—30分—遊仙橋
2	地図	国土地理院発行 (1/25,000) 地形図 大月、笹子
3	交通	JR中央線大月駅下車、富士急都留中央バス桑西行き、間明野下車。帰路は同バス遊仙橋より大月駅へ。(バスは便が少ないのでタクシーが便利) 車：中央道大月ICより国道20号線を西進、真木交差点を右折して登山口へ。(駐車場は遊仙橋際にあり)
4	付近の観光地	温泉 (橋倉温泉、真木温泉)、富士五湖、岩殿山、滝子山、百蔵山、扇山、九鬼山、高川山など富士山が見える里山多数あり。
5	参考図書	朝日新聞1996年10月31日夕刊、毎日新聞1998年4月22日山梨版
6	問い合わせ先	山村正光 (5062)

の一山わが支部とおきの一山わが支部とおきの一山わが支部とおきの一山わが支部とおきの一山

宮城支部

入道雪形の出る山

みずひきにゆうどうさん

水引入道山 (1656m)

宮城県には、雪形で知られた山がふたつある。仙北の栗駒山と、仙南の水引入道である。栗駒山の駒形雪渓はとくに有名で、尻尾をたなびかせた愛らしい駒形が、その名も御駒ヶ岳の山頂にかかって現れる。

水引入道は、南蔵王、屏風岳の大障壁の手前に立つ瘤のような山である。隣の馬の神岳とともに、普段はあまり目立たない。しかし、春になると現れる人形の雪融け紋様は“水引入道”と呼ばれて、田に水を引く目安として山麓一帯の人々に親しまれている。蔵王の中の春を告げる山だ。

1	コースタイム	白石スキー場—2時間30分—大日向—20分—山頂
2	地 図	国土地理院発行 (1/25,000) 地形図 蔵王山、不忘山、白石、遠刈田
3	交 通	JR東北本線白石駅から神嶺バス停まで宮崎交通バスで50分(本数は少ない)。車は白石スキー場からジャンボリーコース登山口まで入れる(数台分の駐車スペースあり)。
4	付近の観光地	蔵王 お釜(熊野岳) 白石城(白石市) 温泉(鎌先温泉他多数)
5	参 考 図 書	柴崎徹著『宮城の名山』
6	問い合わせ先	柴崎徹 (7018) 三宅泰 (10060)

静岡支部

南アルプス深南部の盟主

だいむげんざん

大無間山 (2329m)

南アルプスの光岳から南東に派生した支脈に、大きく重量感あふれる山がある。深南部の盟主ともいえる一等三角点の大無間である。静岡県榛原郡本川根町と静岡市の境にある。山名は井川集落の方言「眉間＝むくん」が山容を見立てて転訛したもので、絶え間なく山々が続くことを意味している。

大無間山への登路は2コースある。ひとつは寸又峡温泉から村道を約20km歩き、大樽沢から登るコース。もうひとつは井川の田代集落から鋸歯一小無間山を経て大無間山に達するコースである。大無間山の山頂にある一等三角点の標石は大井川の玉石であることが、支部の水野公男会員によって昭和32年に確認された。全国的にも貴重である。

1	コースタイム	静岡市田代—15分—諏訪神社—5時間—小無間山—2時間—大無間山
2	地 図	国土地理院発行 (1/25,000) 地形図 畑薙湖、井川
3	交 通	JR静岡駅から静岡鉄道バス3時間で田代。静岡鉄道バス・TEL 054-252-0505
4	付近の観光地	井川ダム、田代温泉、南アルプス 静岡市役所・井川支所 TEL 054-260-2211
5	参 考 図 書	『日本300名山』(新ハイキング社刊) 『静岡県の山』(静岡新聞社刊)
6	問い合わせ先	廣澤和嘉 (11159) 水野公男 (5534)

わが支部とおきの一山わが支部とおきの一山わが支部とおきの一山

福岡支部

平成の新山観賞長崎県雲仙山系

うんせん ふげんだけ

雲仙普賢岳 (1359m)

長崎県島原半島にそびえる雲仙山系は、春の新緑、夏の青葉、秋の紅葉、冬の霧氷、ミヤマキリシマやシロドウダンツツジの群落、原生沼植物群落（国指定天然記念物）などのため、昭和9年に瀬戸内海、霧島とともに、わが国最初の国立公園に指定された。

しかし、平成2年11月17日雲仙山系主峰の普賢岳が198年ぶりに噴火、新たに標高1486mの平成新山が誕生した。噴火活動時期は登山禁止だったが、噴火活動が沈静化するにつれ、妙見岳、国見岳の登山禁止が解除され、平成10年4月には1359mの普賢岳登山も再開された。登山再開とともに、以前に増して登山や自然愛好者、家族連れなどで県内外から、多数の登山者でにぎわっている。

1	コースタイム	池の原駐車場—30分—仁田峠—30分—妙見岳—20分—国見別れ—40分—普賢岳
2	地図	国土地理院発行（1/25,000）地形図 島原、雲仙、愛野、肥前小浜
3	交通	JR長崎駅前バスターミナルから雲仙行き特急バスで約1時間30分。 JR諫早駅前バスターミナルから雲仙行き特急バスで約1時間。 車利用なら、小浜町、国見町、島原市経由の道路が完備されている。
4	付近の観光地	雲仙地獄：雲仙中心街の地獄地帯は見る者を圧倒する。 ビジターセンター：地獄地帯横にあり、雲仙の自然や歴史を知るうえで有効。 大衆浴場：小地獄の浴場は、地獄の乳白色温泉源湯を用いていて人気がある。 雲仙観光協会・TEL 0957-73-3434
5	参考図書	『長崎県の山歩き』『マイカーで行く 九州100山峰』（葦書房刊） 『アルペンガイド 九州の山』『分県登山ガイド 長崎県の山』（山と溪谷社刊）
6	問い合わせ先	下田泰義（8523）

岩手支部

湿原の花と豊かなブナの原生林

やけいしだけ

焼石岳 (1548m)

焼石連峰は岩手県西南部に位置し、栗駒国定公園に属する山々である。主峰焼石岳をはじめとして、穏やかな山容姿を呈しているが、そのなかに重厚な山のたたずまい・豊かな雪田・広大なお花畑など、すべてがおっとりして一見平凡な東北の山という感が深い。

焼石岳の山腹一帯には、大小さまざまな池沼が点在している。ブナを主とした原生林に囲まれた池沼は、碧玉にも似た美しさがあり、それを取り巻く湿原には、高山植物が咲き乱れ、登山者の憩いの場となっている。

1	コースタイム	中沼コース：新幹線—水沢・江刺駅から登山口までタクシー—1時間10分、水沢駅—登山口—タクシー1時間—中沼登山口—30分—中沼—20分—上沼—50分—銀名水避難小屋—50分—焼石平—30分—焼石岳—1時間10分—銀名水—1時間20分—中沼口（他に本コースとしてのツブ沼コースあり）
2	地図	国土地理院発行（1/25,000）地形図 焼石岳、三界山、石淵ダム、夏油温泉
3	交通	JR東北新幹線水沢・江刺駅、またはJR東北本線水沢駅下車、岩手県交通バス（水沢営業所・TEL 0197-24-7413）水沢駅通り～馬留行き、終点ひめかゆ温泉下車。その先登山口までの交通手段はないので、自家用車かJR各駅からタクシー利用がよい。
4	付近の観光地	水沢市：高野長英記念館、後藤新平記念館、斎藤實記念館、奥の正法寺、武家住宅、埋蔵文化財調査センター、国立天文台地球回転研究系水沢観測センター、黒石寺 水沢市商工観光課・TEL 0197-24-2111 水沢観光協会・TEL 0197-22-7800 胆沢町：徳水園 胆沢町観光担当係（経済課）・TEL 0197-46-2111 江刺市：藤原の郷 平泉町：毛越寺、中尊寺
5	参考図書	高橋亭夫著 写真集『焼石連峰の四季』（岩手日報社刊）
6	問い合わせ先	小野寺正英（7793） 近藤有慶（7771） 菊池修身（6275）

わが支部とおきの一山わが支部とおきの一山わが支部とおきの一山

越後支部

比叡山延暦寺主慈覚大師開山

こうさぎさん

光兎山 (966.3m)

光兎山は新潟県岩船郡関川村の北東に位置し、貞観3年(891)の開山以来、修験道の山であった。麓の宮前集落には光兎神社もある。山名は、光兎山、香鷲山、光鷲山、鴻鷲山とあり、いずれも「こうさぎ」と読ませるが、春の残雪期、頂上直下に兎の姿をした雪形が現れることから、現在では、光兎山の山名で親しまれている。

光兎山は、三角錐形の山で、標高はさほどないが、独立峰のため山頂からの展望はよく、地形研究には最適の山である。その昔、日本海を往来する船頭は、この山を位置確認の目標にしたほど、遠くからでも頂が確認できる。近年は登山目的の老若男女でにぎわっている。

1	コースタイム	中束—30分—林道登山口—30分—主稜分岐点—30分—虚空峰—20分—観音峰—50分—雷峰—60分—頂上(下山路も登路と同じ)
2	地 図	国土地理院発行(1/25,000地形図) 越後下関、舟渡
3	交 通	JR米坂線越後下関駅下車、中束へ(定期バスは便数が少ないのでタクシー=関タクシー・TEL 0254-64-2111で20分、2800円程度)。車はR7を坂町でR113へ、関川村大島でR290に移り、村上方面に進み、宮前集落から県道を進み登山口の中束集落へ。
4	付近の観光地	温泉:えちごせきかわ温泉郷(4温泉あり) 村営温泉「ゆーむ」(道の駅すぐ) 観光:国指定重要文化財「渡辺家」、「佐藤家」(道の駅近くにある) 関川村役場観光課・TEL 0254-64-1441
5	参 考 図 書	藤島玄著『越後の山旅』(富士波出版社刊) 関川村編『山岳溪流地図』『登山のご案内』
6	問い合わせ先	平田大六(5804) 横山征平(12270)

信濃支部

静寂さを今も残す名山

おぐらさん

御座山 (2112m)

御座山は群馬、埼玉両県境に近い東信濃にあり、佐久地方から西上州にかけての最高峰。頂上北側に立派な岩壁を有する見事な山容だが、登山者は少なく、真に静かな心洗われる山である。

林道終点より落葉松の谷間を歩き、山毛櫸、栃などの原生林を抜けると不動の滝(唯一の水場)。さらに進むと石楠花の群生地に鎖場がある。これを過ぎた鞍部の手前から岩壁を登ると頂上に着く。眼下に御陵山、天狗山、その奥に甲武信、金峰、瑞牆などの山々、さらに八ヶ岳、北アルプスから浅間山、西上州の山々まで遮るもののない大展望が得られる。6月上旬、山稜を彩る石楠花は圧巻。

1	コースタイム	林道終点(道標あり)—40分—不動の滝—30分—鎖場—20分—金沢のコー—20分—御座山
2	地 図	国土地理院発行(1/25,000)地形図 信濃中島、御所平 昭文社発行 山と高原地図(1/60,000) 西上州、妙義
3	交 通	JR信濃川上駅—10km—馬越峠—9km—南相木村中島 JR小諸駅—11km—南相木村中島—4km—栗生バス停—1.7km—林道終点登山口 南相木村中島には役場がある。小諸、栗生間は村営バスがあるが便数は少ない。
4	付近の観光地	立原高原オートキャンプ場:南相木村 大深山遺跡:国内で最高所(1300m)に位置する縄文遺跡 廻り目平キャンプ場:金峰山、小川山登山口(近くの尾根岩はロッククライミングのゲレンデになっている)
5	参 考 図 書	深田クラブ編『日本200名山』『御座山の頂』(昭文社刊) 藤本一美、田代博編著『展望の山旅』(実業之日本社刊)
6	問い合わせ先	田村佐喜子(4801) 鳥橋祥子(10020) 金子丞二(6511)

報告

REPORT
3月

科学委員会

「数値地図」講演会

話題のパソコンを利用した「数値地図」について、基礎的な知識と、どんなことが利用可能なのかをテーマに、講演会が二月二十四日、本会ルームで開催された。

数値地図は国土地理院が既存の地図情報を数値化してコンピュータで利用できるようにしたもの。従来の紙地図との大きな違いは、目的に応じた自分なりのオリジナル地図が作成可能であることや、整理や保管が楽になることがあげられる。

はじめに講師の小堀昇氏(日本地図センター・地図研究所)が、データの作成方法や種類、メッシュ番号(地域を示すコード番号)の説明など基本的な内容を説明された。

続いて田代博氏(筑波大付属高校)が数値地図を利用してできるさまざまな使い方の実例を紹介した。パソ

コン通信上で流通している無料や小額で使えるソフトで鳥瞰図やルート図を作成したり、特定の山がどこから肉眼で見られるかを見出したり、工夫次第で面白い使い方があること。また、小型のナビゲーションでモニターを見ながら登山をすることが可能になってきていること。いまや地図は紙の上で見る時代ではないと納得させられた。さらにはバーチャル登山もよりリアルになり、あたかも現地にいるかのような視界を得ることも可能になりつつある。

技術の進展とともに、山登りそのものも大きく変革しているさなか、数値地図も今後思いも寄らない使い方が生まれる可能性を感じた。参加者二十五名。(近藤善則)

学生部指導委員会

雪崩ピーコン講習会を開催

平成十年度学生部指導委員会最終事業として、一月十五、十六の両日「雪崩ピーコン講習会」が、母池神の田圃の早大ヒュッテで開かれた。参加者は関西二校の学生を含め、二十四名。雪の降り続く高曇りの中、学生部ブータンヒマラヤ登山隊を中心に十字法、電波方位法、埋没体験、搬出訓練などに励む。監督、コ



全員雪まみれで研修に励む

ーチ、学生とも、雪まみれの一団となり、二日間の意義多い講習会を無事終了した。

例によって夕食後の懇親会は、OB主導の山の歌唱大会で大いに盛り上がった。

(法政大学山岳部監督 鳥居和雄)

三水会現地集會

奥武蔵・竹寺山行

二月恒例の奥武蔵山行が竹寺一泊で行われた。六日、西武池袋線飯能駅下車、タクシーに分乗して竹寺に向かう。夕刻のひととき、竹林や本殿など山内を散策。鐘楼のある展望台に登ると、名栗川を隔てた対岸に、棒の折山、蕎麦粒山、有間山、蔵山などの山稜が入り日に照らされて、鐘の音が山里に響く。

本坊の食卓には山菜精進料理が並べられていた。竹寺の精進料理は春と秋だけで、この時期は特別扱いで

ある。これは大野住職と坂倉さんの五十年来の付き合いによるもので、二十二回続いている。

住職の説明を聞き、竹筒の薬湯を賞味していると、一大事発生。副住職が「火事だ」と叫ぶ。見ると裏山にある本殿に火柱。雨が降らず異常乾燥中、瞬く間に一面火の海。山寺のこと、街と離れているため消防車の放水まで時間がかかった。

十七時五十分、柱が崩壊し、屋根が落ちて、江戸初期の建造と伝えられる本殿牛頭天王本宮は、本尊とともに焼失した。火は付近の枯葉や樹木に延焼したが、山火事には至らなかった。また昨年、屋根を吹き替えた本坊も無事で、ほかに被害はない。風がなかったのが幸いだった。境内は警察と消防で騒がしい。食事でも中断し、宿坊に移動した。

悪夢の一夜が明けて静けさが戻る翌朝、風もなく快晴、予定通り出発した。豆口峠を経て植林帯を登ると、展望がよく明るい尾根道となる。伊豆ヶ岳分岐を過ぎて子の権現に着く。珍しい正六角形の畳の部屋を拝観、健脚祈願をして下山した。

途中、浅見茶屋で手打ちうどんを食べて解散。直接組と吉田山経由組に分かれて、ともに吾野駅から帰途についた。エーデルワイスクラブ合同、参加者二十四名。(田久保勇治)

東西南北

会員の皆様のご意見、エッセイ、俳句、短歌、詩などを掲載するページです。どしどしご投稿ください。(紙面に限りがありますので、一点につき二〇〇字詰原稿用紙五〜六枚をお願いします)



イラスト 野田四郎

赤シャツ今昔物語

神谷恭平

昔の話、赤シャツ誕生の経緯は昨年の「山岳」に山田二郎氏が、名筆で佐藤久一朗さんのたぐい希な人となりを描いているなかで、「還暦会の赤い手編みのセーター」としてあますところなく紹介している。

さて今の話、赤いセーターは赤シャツと名を変え、会の中では赤シャツ土曜会(三十四名)としてわずかに命脈を保っている。

私は少しでも会員増強をとの願いから、某日事務局に電話したところ、即座に年代別の会員数を教えてくださった。曰く十代一、二十代七十九、三十代二百八十六、四十代八百三十七、五十代千九百十九、六十代なぜか同数の千九百十九、七十代五百八十六、八十代百四十八、九十代二十

一、百歳が一人、計五千七百七十九名だ。赤シャツ有資格者二千六百五十七名はなんと四六パーセント、明らかに老齢化している。平均年齢でも五十八歳である。

我が家には赤シャツが二着ある。一着は亡父の遺品で妻が愛用している。私の分には悲しい思い出がある。赤シャツを実費で編んでくださる方が何年も見つからず、この美しい風習を絶やすまいと坂倉登喜子さんのご努力で、先生の山行助手、沼田敬子さんがその役を買って出られた。私がその第一号をお願いし、立派に出来上がったそれを着用して、ある会でご披露した。彼女もその場で皆さんのお役に立ちたいと張り切っておられた。その笑顔がまさか、旬日後彼女は急逝されたのだ。

私のシャツが最初で最後になってしまった。今、私はそのシャツを着てこの稿を書いている。これ以後、

まだ編んでくださる方は見つからない。

モロッコの旅雑詠

伊佐九三四郎

北アフリカの最高峰トゥブカル山を偵察し、カスバ街道を走る。サハラ砂漠入口の砂丘を歩き、カサブランカやラバトの都会に貧富の差を見、世界遺産・カスバ(要塞)の村のいくつかを訪ねる。イスラム寺院・モスクの美しい塔にも増して、長大なアトラス山系の雪の白さが印象に残る旅だった。次ぎはトゥブカルの頂に立ちたい。

トゥブカルは姿見せねどアトラスの峠越ゆる日心楽しも

アーモンド白き花咲くトドラ谷高き
断崖水は温まらず

一文字横に引きたるアトラスは母なる恵みオアシスの村

見はるかす荒野に引ける白眉あり冬日風なくまどろみてをり

ひた走るアトラスの麓果てしなき石の原ゆく駱駝ありけり

オアシスの流れに濯ぐ女あり子等も茂みに布干してをり

あまりにも揺るる駱駝の背の上で月の砂漠は唄はざりけり

日の出づる砂丘の彼方に故国あり我等がメッカに祈り捧げむ

白き花梅か桜かふるさとをふと思はするカスバ遺跡に

白き町カサブランカを過ぎゆきて赤き都のマラケシュの見ゆ

外人部隊白き服着て過ぎゆきしカスバの道に何問いかけむ

今西壽雄さんの散骨

宗賀慶子

二月十二日のカトマンズは春の陽気です。一九九六年、ナガルコットの丘に葬った今西壽雄さんの遺骨をマナスル周辺に散骨することになりました。

カトマンズからヘリで飛来された宮原魏さんと合流して、今西芳子さんと私はナガルコットのヘリポートを飛び立ちました。

カカニの丘、段丘の幅が狭まると、



線香を供える今西夫人

ギヤルツェンさんの遺児、ニマ・ラ

「おじいちゃまと一緒に」とお孫さんが焼かれた小指の爪ほどの内裏様、官女、大臣、五人囃子、仕丁が、茶色の粉とともにマナスルの空に飛びました。「アツ」と一瞬息が止まった感じ。お線香を投げ、お好みのお酒も撒きました。マナスル初登頂の際、今西さんに行したギヤルツェン・ノルブさんやこの周辺で亡くなられた岳友が、相集って賑やかな酒盛りがはじまったでしょうか。

アンナブルナが見え、機は大きく旋回してカトマンズに向かいました。安堵なさつたのか、睡む芳子さんの背に陽光が注いでいました。

白く輝くランタンリルン、青空の中のカネツシユ、ブリガンダキが大きな曲がり込んでヒマルチュリが迫り、サマの集落も真つ白です。マナスル水河の末端の水河湖は鉛色で堅そう。マナスルの先端から雪煙が上がっています。宮原さんがヘリの左側の小窓を開けて、土に還ったお骨と遺髪

の袋を開けました。

「おじいちゃまと一緒に」とお孫さんが焼かれた小指の爪ほどの内裏様、官女、大臣、五人囃子、仕丁が、茶色の粉とともにマナスルの空に飛びました。「アツ」と一瞬息が止まった感じ。お線香を投げ、お好みのお酒も撒きました。マナスル初登頂の際、今西さんに行したギヤルツェン・ノルブさんやこの周辺で亡くなられた岳友が、相集って賑やかな酒盛りがはじまったでしょうか。

ボナッティ氏との一日

川見博美

ボナッティ氏を案内して清水寺の見学を終え、車を置きにいったん帰宅。今夜の歓迎会場、京都駅前の京阪ホテルに入った時は既に講演は始まっていた。チョゴリザ初登頂の平井一正氏が、この夏、チョゴリザの麓までトレッキングされたスライドを映写。いよいよ、ボナッティ氏歓迎の宴が始まる。

乾杯、挨拶、歓迎の辞、内田昌子さんの花束贈呈……。京都支部とAACCKで急遽計画したため三十名ちよつとの参加者数だが、一九五八年同じ時期に同じ水河で、ガッシャブルムIV峰(七九八〇メートル)初登頂のボナッティ氏と、チョゴリザ(七六五四メートル)初登頂のAA

モ、ラクパ・ノルブさん姉弟が見えました。昨秋、お母さんのペンパ・リタさんもギヤルツェンさんのもとに旅立たれた由で、ご冥福を祈るばかりでした。

夜はホテル・ヤクアンドイエティで催された堺ライオンズクラブ・今西記念奨学金の第一回授与式に参加し、あわただしくカトマンズにさよならをしました。

CKの隊員が交流以来四十年ぶりの再会であり、談笑の渦と拍手が部屋中に広がる。

司会の高村さんは、チョゴリザ隊の一番若い隊員であったが、今や京都大学名誉教授の農学博士。しかし、そんな堅い雰囲気は微塵も感じられない軽妙な話術で宴の雰囲気を盛り上げていく。その高村さんが私に近寄ってきて、清水寺でサインをもらったいきさつを話すように、と言う。面映ゆい思いでボナッティ氏の隣に立ち、「わが山々へ」に感銘を受け、拙著にサインをいただいた経過を報告する。「本を書いたことの責任を感じる」と言う彼の言葉に、身を削って文章を書くジャーナリストの精神を垣間見た思いだった。

最後に岩坪五郎氏の音頭で「山の大神」の合唱が始まった。深田久弥の「ヒマラヤの高峰」、桑原武夫の「チョゴリザ登頂」、加藤泰安の「森林・草原・水河」などにイタリア隊との歌の交流が書かれていて、読む側の私はその一節にチョゴリザ隊の澁刺たる若さを感じたものだが、今や当時の隊員は、学会の泰斗、斯界の権威として、指導的立場にある人たちがばかりだ。そんな彼らとボナッティ氏の心が一つにつながって合唱の歌声が高まっていた。カラコルムの水河の思い出が四十年間熟成さ

コンパスグラス HB-3

広視野10°の明るい視野に目盛が重なって見えます。見た目標がそのままだ正しい磁気方位です。

重量78g.

つや消し黒 ￥17,000 送料 ￥600

黄褐色メタリック ￥18,000 消費税別

カタログ代無料、電話、FAX、来書でどうぞ

〒177 東京都練馬区上石神井1丁目37番13号

TEL 03-3928-5411 FAX 03-3928-5411

株式会社 石神井計器製作所

図書紹介

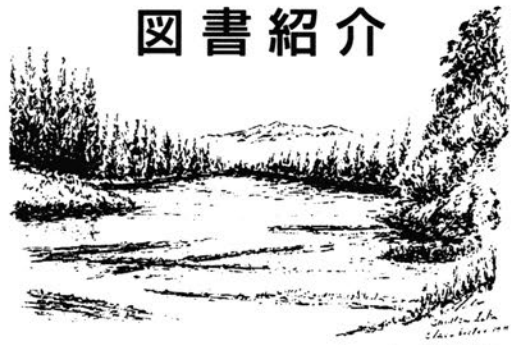


イラスト 陣谷益雄

大垣山岳協会・編 『美濃の山』一～三巻

本誌でも紹介された森本次男著『樹林の山旅』は東海以西人にとつて、一種呪術的な響きを持つている。だからそのことを知らない人が本の題名に使用すると問題となることが多い。

本書は美濃と越前・近江にまたがる両白山地一帯の山塊をまとめたもので、森本氏が「奥美濃」と名づけた地域である。奥美濃になぜ越前の荒島岳や、近江の横山岳が入るのかという論議は昔からあるが、「奥美濃」の語感には好まれ使用されている。今回、大垣山岳協会が『美濃の山』

として第一巻・揖斐川水系の山、第二巻・長良川水系、第三巻・木曽川水系と日ごろ慣れ親しんだ山々の登山記録の収録など約二百山を集成されるにつき、一部飛驒の山が含まれるのには水系という概念で見事クリアされてくるのはさすがである。

典型的な道のない敷山を“道のない山”とはどこからでも登れる山”と感得し、長年にわたりゆるぎない実践を継続されてきたことが結実している。地名採集など地味な仕事も丹念になされ、単なる記録集でなく研究書の領域にまで踏み込んでいいるのは、編者の熱意が並のものではないことを示している。巻末に概念図と山名索引があるのも親切で、読者が登りたい山を容易に探し出すことができる。

一九九六～九八年 ナカニシヤ出版
発行 二千二百円～二千五百円

丸山直樹・著 『ソロ 単独登攀者 山野井泰史』

山野井泰史―一九六五年四月二十一日生まれ（東京都足立区）、身長一六六センチ、体重五六キロ、街では瞳がキラリと輝く気のいいお兄ちゃん。現時点の日本最強アルパイン・クライマーである。「世界最強のソ

ロ・クライマー」と言っても過言でない。「こんな男がいることを多くの人々に知ってもらいたい」と思い本書を捧げる」と巻頭にある。

本書は、プロローグ・自分という極限 マカール西壁九六年秋・七四〇〇メートルで敗退（TBS放映）からはじまり、第一章・高みを見るような、第二章・少年の日に、第三章揺れる自我、第四章登る意味、第五章・トール西壁、第六章・敗れざるフィッツロイ、第七章・奥多摩の日々、第八章・妥協せず、第九章・山に溶ける、十章・自分を生きる、あとがき、で終わる。

「山と溪谷」誌上九七年八月号から九八年六月号に連載されたもの。正しい登山技術を身につけるため十五歳で日本登攀クラブに父親同行念書付きで入会。高校二年よりフリー・クライミングに没頭。高校卒業時の三者面談では、ヒマラヤの壁に登るためフリーを極めると「進学、就職はしない、ヨセミテに行きます」と。以来十五年間、すべてをクライミングに費やす。定職はなく、冬期富士山ボックで主な生活費を稼ぎ、奥多摩の古い借家に妻妙子（旧姓長尾）という屈強な登攀者と住む。両者協力して山中心、山登りの夢を追う暮らしである。

一九九八年十一月 山と溪谷社発行 二八六ページ 千五百円

ブクレーエフ&デウォルト・共著 鈴木主税・訳

『デス・ゾーン 八八四八M ―エヴェレスト大量遭難の真実―』

一九九六年五月、日本の難波さんをも含め、多くのエベレスト登山隊が大量遭難した。この時の様子を自らも隊の一員であったジョン・クラカワーは著書『空へ』で克明に記している。本書の著者は別のパーティーにガイドとして加わっていた。『空へ』では遭難前後におけるブクレーエフの行動が「ガイドとして……」と批判的に記されていることに対し、本書をもつて強く反論している。また当時の様子が別の角度からも、生々しく伝わってくる。

ブクレーエフはソ連の崩壊とともに登山家としての生き方を変え、ガイドとして登山活動をしていたが、強靱な体力は人間業を遥かに越えていた。その強さが遭難時に多くの命を助け出すことを可能としたが、その行動の正当性を本書によって世に問うたものともいえる。

ブクレーエフは一昨年ヒマラヤで遭難し、もうこの世にはいない。八〇〇〇メートルを越えた世界で、人間の持ち得る判断と行動をどのようなか、ブクレーエフへのレクイエムとして、人はなぜ最高峰を望む

故島田巽氏の蔵書を寄贈

本会名誉会員の故島田巽氏の蔵書(単行本141冊、雑誌102冊)を、ご遺族のご厚意により寄贈していただきました。本部図書室に収蔵しました。ご閲覧ください。

和書(72冊)

1. 垂直の散歩 藤木九三著
2. 登山談義 黒田孝雄著
3. 山岳展望 深田久彌著
4. 写真集・チベット マライニ著
5. ジョージ・マロリー ロバートス著/夏川道子訳 他

洋書(単行本69冊、雑誌102冊)

1. The Exploration of Caucasus
2. Illustrations of the passes of the Alps
3. The Ascent of Mount St. Elias: Alaska
4. The Alpine Journal合本 他

図書受入報告(1999年3月)

著者	書名	ページ・大きさ	出版元	出版年	寄贈/購入別
フック他(著) 山田晃(訳)	地球上、最後の冒険 南極横断(上巻)	284pp/21cm	光文社	1959	富田健一氏寄贈
岩波書店編集部(編)	雪の結晶(岩波写真文庫 No. 7)	64pp/19cm	岩波書店	1950	富田健一氏寄贈
岩波書店編集部(編)	積雪(岩波写真文庫 No.16)	64pp/19cm	岩波書店	1950	富田健一氏寄贈
ハズルト(著) 内藤岩雄(訳)	蒙古の旅・上巻(岩波新書 No.86)	240pp/18cm	岩波書店	1942	富田健一氏寄贈
ハズルト(著) 内藤岩雄(訳)	蒙古の旅・下巻(岩波新書 No.87)	212pp/18cm	岩波書店	1942	富田健一氏寄贈
中谷宇吉郎	雪(岩波新書 No. 8)	161pp/18cm	岩波書店	1940	富田健一氏寄贈
谷内尚文	樺太風物抄	233pp/19cm	七文書院	1944	富田健一氏寄贈
荒澤勝太郎	粉雪の魅力: 樺太のスキーと雪山	422pp/19cm	中央情報社	1938	富田健一氏寄贈
原田三夫	山の科学 [第5版]	422pp/20cm	朋文堂	1940	富田健一氏寄贈
中浦皓至	日本スキー・もうひとつの源流: 明治45年北海道	332pp/22cm	北海道大学図書刊行会	1999	高澤光雄氏寄贈
富山県立山博物館(編)	特別企画展「山を撮る」: 山へカメラを向けた人々(1)	55pp/30cm	富山県立山博物館	1998	発行者寄贈
富山県立山博物館(編)	山と人の交響詩: 山岳映像	50pp/30cm	富山県立山博物館	1998	発行者寄贈
野田四郎	画文集: 山・森・花	124pp/19cm	野田四郎(私家版)	1999	著者寄贈
コーボルト編集委員会(編)	コーボルト70年(山形高校・大学山岳部同窓会創立70周年記念誌)	413pp/22cm	コーボルト会	1999	発行者寄贈
岩峯登高会(編)	遠い頂: 剣岳遭難報告と追悼集(付属資料あり)	280pp/22cm	岩峯登高会	1998	発行者寄贈
わらじの仲間(編)	ハッ岳日ノ岳ルンゼ雪崩事故報告書	31pp/30cm	わらじの仲間	1998	発行者寄贈
武田久吉	明治の山旅(平凡社ライブラリー No.279)	349pp/17cm	平凡社	1999	出版社寄贈
福島高校山岳部OB会(編)	凌山梅花嶺: 福島高校山岳部OB会 天山登山隊報告書	156pp/26cm	福島高校山岳部OB会	1999	発行者寄贈
東京都勤労者山岳連盟(編)	奥多摩山歩き一周トレール	211pp/21cm	かもがわ出版	1999	出版社寄贈
高見和成遭難追悼編集委員会(編)	山毛樺林より: 高見和成 遺稿追悼集	183pp/27cm	悠々社	1999	広島支部寄贈

英文初版復刻集成

W. ウェストン著作集

Collected Travel Writings of Walter Weston
全4巻(図版170/32点、地図4点入り)

99年3月刊 ¥88,000(本体セット価) ISBN: 4-931444-11-3

本全集はウェストンの日本に関する著書の4作全ての初版を復刻し、登山や旅行を通して見た、明治期の日本に対する一西洋人のユニークな視点とその全体像を明らかにします。著作の中には"The Making of the Soldiers in Modern Japan", "Japan's Debt to China", "Sports and Pastimes in Ancient and Modern Japan", "The Earthquake of 1923"などの項目も含まれており、日本文化全体への彼の関心と理解がうかがえます。

●好評発売中●

英文版復刻集成 イザベラ・バード全集
全12巻 ¥220,000(本体セット価) ISBN: 4-931444-03-2

* 詳細はお問い合わせ下さい。

発行元: Edition Synapse

〒101-0047 東京都千代田区内神田2-7-6

Tel: 03(5296)9186 Fax: 03(5296)0546

のか、じっくり読むに値する一冊である。
一九九八年八月 角川書店発行
二八九ページ 千八百円
(林 栄二)

佐伯邦夫・著
『山とスキー大全』

薄い霧が流れていた。チンネは灰色の巨大な岩盤だった。そこを無心で這った。十七歳のときのあの霧の中を這う感覚が太い一二ミリの麻のザイルの感触とともに今なお鮮やかだ……。

本書の一文である。富山の佐伯姓は多くの傑出した山人を輩出している。

るが、氏の生家も黒部奥山廻り役の旧家、少年のころから郷里の剣・立山連峰を我が家の庭のごとく跋渉する。初エッセイ集『ぶどう原に雪ふり積む』はみずみずしい感性に満ちた文学性の高い作品であった。本書も山とスキーを謳いあげた山岳交響曲といったような佐伯節独特の波長が感じられ、読み応えのある作品に仕上がっている。ただ、内容に見合うもつと適切なタイトルがあったのではないかと惜しまれる。

一九九五年十一月 シー・エー・ピー発行 三二二ページ 二千五百円 (村井 葵)

図書受入報告 (一括購入分・1998年2月)

著者	書名	ページ・大きさ	出版元	出版年	寄贈/購入別
田淵行男	田淵行男写真文集：安曇野	/31cm	朝日新聞社	1976	購入
田淵行男	田淵行男写真集：山の意匠	/31cm	朝日新聞社	1976	購入
田淵行男	田淵行男写真集：山の季節	/31cm	朝日新聞社	1969	購入
辻まこと	山と森は私に語った	166pp/22cm	白日社	1980	購入
辻まこと	辻まこと画文集：山で一泊	143pp/27cm	創文社	1984	購入
辻まこと	多摩川探検隊 (小学館ライブラリー No.705)	220pp/17cm	小学館	1993	購入
色川大吉	雲表の国：青海・チベット踏査行	338pp/19cm	小学館	1988	購入
木崎甲子郎	氷点下の1年：南極・オーストラリア基地	241pp/20cm	朝日新聞社	1972	購入
徳岡孝夫	ヒマラヤ：日本人の記録 (毎日ノンフィクション・シリーズ)	279pp/20cm	毎日新聞社	1964	購入
串田孫一	霧と星の歌	205pp/18cm	朋文堂	1958	購入
武田久吉	山への足跡 (山岳名著シリーズ)	322pp/20cm	二見書房	1970	購入
尾崎喜八	歳月の歌 (詩集)	237pp/20cm	朋文堂	1958	購入
田部重治 (著) 渡部敦 (編)	ふるさとの山々 (日本岳人全集)	584pp/23cm	日本文芸社	1968	購入
冠松次郎	峰と溪 (日本岳人全集)	663pp/23cm	日本文芸社	1968	購入
大内尚樹	多摩川水流紀行：河口から源流まで138キロ	238pp/20cm	白山書房	1991	購入
井伏鱒二	岳麓点描	163pp/20cm	彌生書房	1986	購入
田中澄江	花と歴史の山旅	263pp/19cm	東京新聞出版局	1988	購入
深田久弥	瀟洒なる自然：わが山旅の記	220pp/20cm	新潮社	1970	購入
木戸征治	雨飾山麓冬だより	190pp/22cm	山と溪谷社	1987	購入
大月桂月	多摩の山と水 上巻 (多摩ふるさと叢書)	254pp/20cm	八潮書店	1982	購入
高橋源一郎	多摩の山と水 下巻 (多摩ふるさと叢書)	247pp/20cm	八潮書店	1983	購入
川口邦雄	日本の山100 (講談社現代新書 No.739)	238pp/18cm	講談社	1984	購入
直良信夫	峠と人生 (NHKブックス No.253)	230pp/19cm	日本放送出版協会	1976	購入
伊藤洋平	回想のヒマラヤ (山溪山岳新書)	158pp/17cm	山と溪谷社	1955	購入
中垣虎児郎	北極	486pp/20cm	改造社	1935	購入
ライト (著) 大日本文明協会 (訳)	北極 (全)	522pp/23cm	大日本文明協会事務所	1914	購入
原田三夫、松山思水	北極探検 (世界探検全集 No.1)	304pp/20cm	萬里閣書房	1930	購入
メスナー (著) 尾崎聖治 (訳)	死の地帯	254pp/20cm	山と溪谷社	1983	購入
ノイス (著) 深田久彌 (訳)	マチャプチャリ：ヒマラヤで一番美しく峻しい山	201pp/20cm	文藝春秋新社	1962	購入
伊藤洋平	山と雪の青春：アルプス・ヒマラヤ・南極	280pp/19cm	三笠書房	1958	購入
パウアー (著) 田部主計 (訳)	カンチェンジュンガをめざして	281pp/20cm	実業之日本社	1956	購入
山本和雄	穂高：山本和雄作品集	151pp/30cm	山と溪谷社	1975	購入
エグラー (著) 横川文雄 (訳)	雲表に聳ゆる峯々 (エーデルワイス叢書 No.12)	413pp/19cm	朋文堂	1958	購入
ノイス (著) 野間寛二郎 (訳)	未知の山へ	232pp/22cm	ベースボールマガジン社	1963	購入
春日俊吉	富士と其附近の山々	176pp/19cm	登山とスキー社	1940	購入
神原信一郎	富士山の地質と水理	482pp/23cm	博進館	1929	購入
山梨縣	富士山の自然界	216pp/19cm	山梨縣	1925	購入
山梨縣	富士山麓と御嶽：附・富士川下り	138pp/18cm	朗月堂書店	1924	購入
小林芳太郎	火山	582pp/23cm	南光社	1929	購入
長野縣観光協會 (編)	國境を往く：信濃を繞る	142pp/19cm	金華堂書店	1940	購入
武俠世界社 (編)	山河跋涉案内 (武俠世界夏期増刊)	288pp/19cm	武俠世界社	1921	購入
デメゾン (著) 近藤等 (訳)	グランド・ジョラスの342時間	252pp/21cm	集英社	1977	購入
東良三	アメリカ大陸の探検時代 (上巻)	226pp/19cm	目黒書店	1947	購入
東良三	アメリカ大陸の探検時代 (下巻)	224pp/19cm	目黒書店	1948	購入
木崎甲子郎	南極大陸の歴史を探る (岩波新書 No.857)	209pp/18cm	岩波書店	1973	購入
富山和子	水の文化史	246pp/20cm	文藝春秋	1980	購入
石田五郎	星の歳時記 (ポケット文春 No.522)	221pp/18cm	文藝春秋新社	1963	購入
加納一郎	25人の極地探検家 (朝日文庫 No.カー15-1)	306pp/15cm	朝日新聞社	1992	購入
西丸震哉	尾瀬 (ブルー・ガイドブックス No.6)	190pp/18cm	実業之日本社	1967	購入
志賀重昂	日本風景論 (岩波文庫 No.33-112-1)	395pp/15cm	岩波書店	1995	購入
田部重治 (著) 近藤信行 (編)	山と溪谷 [新編] (岩波文庫 No.31-142-1)	323pp/15cm	岩波書店	1993	購入
桑原武夫	桑原武夫全集 (第7巻)	578pp/20cm	朝日新聞社	1969	購入
桑原武夫	桑原武夫集 (第1巻)	652pp/20cm	岩波書店	1980	購入
桑原武夫	桑原武夫紀行文集 (第3巻)	343pp/20cm	河出書房	1968	購入

会務報告

二月理事会

日時 二月十日(水) 十八時三十分

二十時

場所 日本山岳会会議室

【出席者】 斎藤会長、小倉、大森、竹内各副会長、吉永、伊丹、熊崎、絹川、村井、飯田、鯉坂、増山、森、大蔵、宇田川、宮崎各理事、石橋、神崎各監事、平山、穴田、長尾、中川、平野、中村各常任評議員

【委任】 田邊、坂本各理事

【審議事項】

一、ガンカー・プンスム登山隊の件

大森副会長

二月六日、中国登山協会張江援交流部部長より口頭で、ガンカー・プンスム峰の登山を延期してほしい旨の申し入れがあった。一月二十九日中国外交部より中国登山協会に対して「この計画は見合わせてほしい」との連絡が入ったためである。現在の情報としては、プータンより中国に申し入れがあったようだ。二月八日、日本の外務省より電話による問合せがあったので、文章によるものにしてほしいとお願いしている。二月二十四日以降、会長が訪中して対応することになった。必要があれば臨時常務理事会・理事会で審議する。

登山隊は正式に中止されたわけではないので、準備を進める必要があることが確認された。総隊長斎藤会長、隊長伊丹、副隊長中村、登攀隊長山本、登山隊員として、登攀リーダー鈴木清彦(41)、角谷道弘(35)輸送、小林尚礼(29)気象、竹内洋岳(28)食糧、高橋和弘(25)輸送、加藤慶信(23)食糧、佐藤大輔(27)通訳が承認された。募金は実行委員会メンバーが募金運営委員になる。承認

二、青森支部の白神山地ブナ植林事業の件
大蔵

青森支部より要請のあった表記の件は自然保護活動、支部の活発な活動によりことであり、百周年記念事業としてふさわしい。承認

三、「早池峰の高山植物」保全 大蔵
高校総体会場になる早池峰の高山植物保全に関して文化庁に要望書を出したい旨説明があった。承認
四、ネパールヒマラヤ登山隊推薦状交付の件 大蔵

亜細亜大山岳部の「99野口サガルマータ登山隊」より都岳連、日山協への推薦状交付依頼があった。承認
本会が推薦状を発行した会員のアマダラム登山への不参加について伊丹理事より報告があった。

五、写真複写依頼の件 鯉坂
檜枝岐村が計画している「武田久吉メモリアルホール」のため、ゆかりの小島烏水、木暮理太郎両氏の写真提供依頼があった。資料担当理事が対応する。承認

【報告事項】
山研水力発電・森

一月十八日、松本で関係諸官庁と交渉、文書提出の必要性などについて報告があり、実作業時の学生部の協力などの要請があった。
学生部日中合同登山・宮崎

今秋「雪峯頂」にて実施したい。議定書など必要な詳細は今後積極的に詰めてゆく。

海外登山基金・大森副会長

申請のあった三隊について、札幌山岳連盟「マナスル冬季登山隊」に二十万円、立教山友会「立教大学ガッシャブルムII峰登山隊」に五十万円、「ガンカー・プンスム登山隊」に五十万円の交付を決定。予算は百万円だが、「山岳」の印刷代が安くできたことなどを勘案して二十万円を上乗せした。

評議員会について・絹川

次期役員、評議員の推薦について話し合うため、二月十三日開催する。

総務委員会・絹川

支部事務局会議(二月二十七、二十八日)、春期新入会員オリエンテーション(三月二十七日)に、各理事、役員の参加を要請する。

財務委員会・吉永

新年度の事業計画書、予算要求書など未提出委員会は二月十五日締切厳守、仮払いの清算も要望する。

医療委員会・増山

文部省登山研修所に設置される低酸素室について説明。

指導委員会・熊崎

八ヶ岳アイスクライミング研修会(二月三十―二月一日は三十五名の若手会員が参加、有意義だった。会報編集委員会・村井

原稿は発行月の前月十日の締切に協力を要請する。

図書管理委員会・小倉副会長

一月二十日、二月九日と小委員会を開催した。意見を二月中にまとめたい。現図書管理委員会は廃止(総会の承認が必要)、図書は会の財産であるとの観点から財務委員会に図書管理に関する小委員会を設け、図書の購入、図書室の管理などについて検討する。

■会員異動

物故

村田数之亮(二五四九) 99・1・20
退会・99・2・28

今井章雄(二一七七二)
今井安宗(二一七七三)

森厚(六五二四)

山口良司(二一六九九)

渋川昭市(九二二四)

INFORMATION



◆探索山行「火山ガスの危険を現地に学ぶ」

科学委員会

近年各地で危険性が指摘されている火山ガス。二年前に事故があった福島県安達太良山・沼ノ平で、実際の状況を見学し危険性を学びます。

日時 六月十二日(土)～十三日(日)

山行 安達太良山

講師 千葉茂樹氏(福島県立福島南

高校)

費用 二万円(予定)

集合 JR南浦和駅からバス

宿泊 沼尻高原ロッジ(田部井淳子

会員のロッジ)

定員 先着四十名

申込 五月二十日までに丸山修一へ

〒一〇二一〇〇七二 千代田区

飯田橋二九一四一〇〇五

FAX・〇三三二五二二一七〇三六

Eメール・smaru@tkaall.ne.jp

*申込者には詳細案内を連絡します。

◆新会員のための

「焼岳登山とウエストン祭」

山研運営委員会・青年部共催

平成十年度入会者を対象に、ヒマラヤで活躍中の会員のガイドで焼岳登山。ついでウエストンに関する講演翌日にウエストン祭に参加します。

対象会員 一二七二六～一二九七〇

日時 六月五日(土)～六日(日)

費用 一万一千円(保険料、ウエス

トン祭参加費、一泊三食、懇

親会費を含む)

定員 先着二十名で締め切り

申込 ハガキに会員番号、住所、氏

名、年齢、電話番号を明記し、

日本山岳会山研委員会宛。

*電話の申込は受けつけません。

◆第三十八回木暮理太郎翁碑前

懇親会

山梨支部

本会第三代会長木暮理太郎翁の碑

前懇親会を故人の祥月に行います。

日時 五月二十二日(土)～二十三日(日)

場所 山梨県北巨摩郡須玉町金山平

交通 JR中央線韮崎駅下車、増富

温泉行き山交バス終点下車、

徒歩九十分(タクシーあり)

行事 二十二日 十八時より懇親会、

二十三日朝、碑前祭の後クリ

スタルラインを経て記念山行

JR甲府駅にて解散。

山行 甲府市北郊、興因寺山(八五

四メートル、三等点、点名は

相川村)。二万五千分の一地図

さんけんだより

開所の春を
待っています

上高地は今年も昨年同様雪が少なく、積雪は一メートルくらい。おまけに工事のためか道も除雪され、その道を多くの人たちが登っています。

信州と飛騨を結ぶ国道一五八号線は、安房トンネルの開通で全線冬期通行可能となり、冬の上高地も大きく変わろうとしています。週末の早朝、観光バスが釜トンネルのゲート前に止まると、クロカンスキーを持った人たちが降り、上高地を目指して登って行きます。午後またバスがやってきて、雪の上高地を満喫した人たちを乗せると、安房トンネルを抜けて平湯温

泉へと向かって行くのです。旅行会社主催のバスツアーが今年は多く、週末には観光バスが並ぶとか。上高地には冬に使えるトイレの数が少なく、夏期のように水洗ではありません。そこに週末百名以上もの人が集まると、結末は明らかです。凍りついた汚物でトイレは汚され、つい旅館などの陰で用を足すことになります。トイレを掃除するのは、環境庁の美化財団の人たち。冬期の見回りに上がってきて、凍りついた汚物の始末までしなければならぬのです。掃除は汚したツアー客などがすべきで、それができないのなら冬期上高地に入る者たちから入山料を徴収するなど方法を考えなければ。一部の人たちに責任を押し付ける風潮と、汚されていく冬の上高地に、何ともやりきれない思いです。山研開所までもう少し。人気の全くない小屋は寂しく、開所の春を待ちわびています。(S)

図「甲府北部」、展望よし。

費用 一万円(懇親会、記念品代、

一泊三食、甲府駅までの交通

費を含む)

申込 五月十五日までに山村正光へ

〒四〇〇一〇〇一六 甲府市

武田三二六―二七

TEL・〇五五―二五二―三二七五

◆第八回今西祭

東九州支部

故今西元会長「九州学問の旅」

を九州四支部集会を兼ねて行います。

日時 六月十二日(土)～十三日(日)
集合 JR大分駅十二日十二時
行程 十二日 大分駅―高崎山(猿
の観察)―豊国ランド(講演
会・懇親会)
十三日 大分駅―宮崎駅―幸
島(猿の観察)―都井岬(扇

総務委員会からお知らせ

事務局が変わりました

●事務局に永年勤務された宮澤美
渚子さん(ヒマラヤ登山のため)、
杉山都子さん(定年)のお二人が
退職されました。永年のご苦勞に
感謝します。お疲れさまでした。

●新しい事務局員をご紹介します。

経理・高瀬公江さん、庶務・深田
由貴子さんです。よろしくお願ひ
します。

土曜日の休室と開室時間について

昨年十月より第二、第四土曜日
は休室、開室の第一、第三、第五
土曜日は午前十時より午後六時ま
です。会員の皆さま、新年度も
ご協力くださるようお願いします。

秩父宮記念山岳賞募集

会員の皆さまからの応募、推薦
をお願いします。締切は七月三十
一日です。応募・推薦書類は事務
局にご請求ください。

山登山、野生馬の観察)―宮
崎駅解散

費用 一万九千円

申込 五月十日までに西孝子まで

〒八七〇〇〇二二 大分市

府内町一三二一六

TEL・FAX〇九七五三三〇九二六

*申込者には詳細案内を送付します。

◆第八回懇親山行・ハケ岳

92同期会

日時 五月二十二日(土)～二十三日(日)

場所 ハケ岳(宿泊黒百合ヒュッテ)

集合 JR中央線茅野駅改札口午前

九時五十分

費用 七千円程度(宿泊費他)

申込 四月三十日までに大貫金吾へ

TEL・〇四八四七二二二三三九

*申込者には詳細案内を送付します。

◆写真展 槍・穂高・ロッキー・

白頭山―「岩橋崇至 山の世界」

「槍・穂高」の新作を中心に、「ロ

ッキー」「白頭山」を加え、巨大パ

ネルに引き伸ばした大作八十点を一

挙に展示します。トークショーや親

子で楽しめるイベントなども。

日時 五月二十二日(土)～三十日(日)

十一～二十時(最終日は十七

時三十分まで) 休館日なし

会場 三越美術館(新宿・南館七階)

TEL・〇三三三三四一〇一一一

入場料 一般千円 大学・高校生八

百円 中学・小学生三百円

ルーム日誌

2月

1日 総務委員会

2日 アルパインスケッチクラブ

ガンカー・プンスム準備会

3日 海外登山実行委員会 会報編

集会議

4日 常務理事会 山の自然学研究

会

5日 フォトビデオクラブ 水力発

電実行委員会

6日 96同期会

8日 アルパインスキークラブ 97

同期会 98同期会 ガンカ

1・プンスム準備会

9日 二火会 アルパインスケッチ

クラブ 95同期会

10日 理事会

13日 評議員会

15日 総務委員会 ガンカー・プ

スム準備会

16日 高所登山委員会 ガンカー・

プンスム準備会

17日 三水会 山の自然学研究会

18日 山岳研究所運営委員会

科学委員会 アルパインスキ

19日 ークラブ 青年部 データバ

20日 ンク研究会

22日 青年部

資料委員会

23日 自然保護委員会 フィルムビ

デオ委員会 ガンカー・プ

スム準備会

24日 科学委員会 海外連絡委員会

山げらの会

25日 常務理事会 データバンク研

究会 自然保護委員会 アル

パインスキークラブ

26日 総務委員会 緑爽会

28日 支部事務局担当者会議

2月来室者 689名

◆編集後記◆

残雪と新緑の上高地を思うと心が
弾みます。ぜひ山研を訪ねてくださ
い。なお、会報原稿は左記へ。

宛先 村井葵(〒一九四一〇〇二二

町田市森野二二二一

FAX 〇四二七二二五五二八

パソコンで原稿制作される場合は

Eメールで奈良原町子宛

narahara@nvc.biglobe.ne.jp

FAX 〇三三三三四一八一一三

日本山岳会会報 山 647号

1999年(平成11年)4月20日発行

発行所 社団法人日本山岳会

〒102-0081

東京都千代田区四番町5-4

サンビュウハイツ四番町

TEL 東京 (03) 3261-4433

FAX 東京 (03) 3261-4441

発行者 斎藤惇生

編集人 村井 葵

印刷 株式会社 双陽社